

環境心理生理運営委員会 議事録 2016 年度 第 1 回

文責 大石

- A. 【日 時】 2016 年 6 月 10 日 金曜日 (17:30~19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 西名大作 (主査)、辻村壮平 (幹事)、大石洋之 (幹事)、
大野隆造、合掌顕、讃井純一郎、土田義郎、槇究、松原斎樹(Skype)、
大井尚行(Skype) 順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 1-0 環境心理生理運営委員会議事次第 20160610
1-1 2015 年度第 4 回環境心理生理運営委員会議事録 (案) (2/22 開催)
1-2 20160610_環境工学本委員会 (第 1 回) 議題
1-3 2016 年度第 16 回環境心理生理チュートリアル実施計画書 (9/5 開催)
1-4 7 月号会告: 第 16 回環境心理生理チュートリアル
1-5 シンポジウム「かわいいと建築 2016」実施計画書 (10/14 開催)
1-6 人間環境学 (表紙・執筆者・目次)
1-7 若手優秀発表賞 実施概要 2016 年度 (修正後)
1-8 2016 年度 環境心理生理分野 大会発表
※配布資料は、原則、オンラインストレージにより配布

E. 【報告事項】

1. 2015 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事録 (案) の確認 (資料 1-1)

2016/2/22 に開催された第 4 回環境心理生理運営委員会の議事録 (案) の内容について確認した。特に指摘・意見はなかったため、正式な議事録として承認された。

2. 環境工学本委員会 (6/10) 報告 (資料 1-2)

2016 年度第 1 回環境工学本委員会の内容について本運営委員会に関連の深い事項について西名主査から報告があった。以下に報告の内容を示す。

■ 調査研究委員会の決算状況

調査研究委員会の予算は基本 (各運営委員会) と研究 (企画刊行委員会) に分かれており、それぞれの予算消化率は基本が 90%、研究が 35%、全体では 75% であった。前年の予算消化率が全体で 78% であったため、依然として消化率は高くない状況である。予算消化率がアクティビティの評価につながるため、今後の予算組みに悪影響を及ぼす可能性がある。

構造は消化率の高い分野であり、予算消化率が悪いところから横取りして使っている。例えば、予算では 2000 万のところを 2300 万くらい使っている。一方で、環境工学は 200 万くらい他分野に使われている (損をしている) 状況である。

■ 2017 年度の日本建築学会大会日程

中国地方での開催で、日程は 8/31 (木) ~ 9/3 (日) の 4 日間、場所は広島工業大学となる。

■ 2016 年度の日本建築学会大会について

OS 投稿数は全体で 143 件のうち環境工学分野が 80 件を占めていた。

2016 年日本建築学会賞 (論文) の受賞者は飯塚先生 (名古屋大学)、岩下先生 (東京都市大学)、柳先生 (工学院大学) の 3 名で記念講演が開催される。研究協議会が 2 日目午前 9 :

45から開催されるが、その前に受賞者記念講演が行われる。

大会期間中の非公式行事の申し込みは7/1（金）までとなっている。小委員会、および打合せや会議などを行われる方は西名主査に申し出ること。

若手優秀発表賞が新設され、学術委員会が出す賞として実施される。

■ 2014-15年度 調査研究委員会活動報告の評価

各本委員会で3月に開催された。

環境工学本委員会に対するコメントとしては、地球環境委員会との棲み分けがどのようになっているのか、という点が指摘された。また、建築学会としての中期目標に対して、環境工学分野でもそれと連動した目標を考えるべき、という意見が挙がった。

■ AIJ-ES の基準策定について

裁判などの際に、学会の根拠資料として利用される可能性があるため、書き方には特に注意すること、という依頼があった。過去に損害賠償請求される事例があったとのこと。

「何々するべき」といった、断定した論調を避けることや、免責事項としての記述を追加するなどの対応が必要。

■ 刊行関係

電磁環境からAIJ-ESが刊行されるが、免責事項を書くかどうかを現在検討中。

自然換気の電子書籍（英文）の出版は取り下げとなった。理由は、甲谷先生が科研費を使って翻訳を行ったため、科研からは甲谷先生名で出版することを求められたが、学会では学会編とした出版しか行えないため、取り下げをされた。

■ 2017年度大会の企画について

1つを中国支部で検討し、9月の本委員会で報告する予定となっている。もう一つは今年同様に岩田先生が担当することとなった。

■ 予算消化率の問題について

環境工学本委員会の予算編成について、基本と研究の予算比率が悪いため、比率を変えてはどうか、という議論がある。また、基本と研究という予算の配分方法にも議論があり、他の分野では、もっと異なった分け方をしている。研究の推進に有効な予算の配分のために新たな枠を設けては、という意見もあり、今後検討されることとなった。

■ シンポジウムの実施計画、実施報告

環境心理生理チュートリアルと、かわいいと建築に関する研究WGが企画しているシンポジウムの2件の開催を西名主査が報告した。

■ 環境工学研究者名簿について

今後も続けるか、やめるか、についてのアンケート結果が発表された。

回答者の3/4はやめた方が良いという意見で、幹事団もやめる方向で考えていたが、すぐにやめてしまうのはどうか、という意見が出たり、大学人事の際に全国のどこにどんな研究者がいるか一覧するのは便利なので残して欲しい、という意見が出たりしたため、継続審議となった。

各運営委員会でも、名簿の継続についてご意見を確認して欲しいという依頼があった。

3. 各小委員会・WGの活動報告（資料1-3～1-5）

■ 環境心理小委員会

環境心理小委員会主査の楨委員から以下の報告があった。

- ・かわいいWGでシンポジウムの企画したことを小委員会で承認した。

- ・チュートリアル WG は9/5（月）に「違いがわかる、違いが見える 心理生理データの統計分析」と題して開催することを決定した。内容、講師の決定は次週 WG に議論する。
 - ・研究手法 WG では、評価グリッド法の本を作ることを考えており、いずれ企画刊行委員会に移行する予定。
 - ・文化 WG では、次回 WG にて京都大学の山田先生にご講演いただく予定。
- 以上のように、いずれの WG も活発に活動を行っている状況である。

■ 感覚・知覚心理小委員会

感覚・知覚心理小委員会主査の土田委員より以下の報告があった。

- ・明日（6/11）委員会開催予定。傘下の2つの WG についても合同で同時開催。
- ・各研究者の最近の話題提供が中心。今後のスピーカー、澤島先生、森原先生。
- ・シンポジウムの企画は検討中、継続審議している。現状、秋の開催は無理なため、冬の開催に向けて考える方針。次回の本委員会が9/12のため、早くても冬開催となると考えている。

■ 社会と環境心理小委員会

社会と環境心理小委員会主査の宗方委員が欠席のため辻村幹事が代理で説明された。

- ・7/7（木）にミニ研究会を開催。講師は熊本大の川井先生に幼稚園の吸音に関して話題提供してもらう。オブザーバー参加は歓迎とのこと。

F. 【審議事項】

4. 2016 年度大会における若手優秀発表賞の審査について（資料1-7, 1-8）

審査員一人あたり5名くらいを審査することにしないと審査基準がぶれるという懸念がある。西名主査からプログラムのセッションごとに審査員の人数を募って調整したいという提案があった。

また、発表者に対しては、若手優秀発表賞の審査対象に該当するのか、また、審査にノミネートするのか、について確認が必要。7月上旬に回答を集め、7月末に集約して整理したい。平行して、各先生方には審査のスケジュールを打診、回答を8月のはじめに集約、確定させるという工程で進めることとなった。

司会者は必ず審査員をするのか？、という質疑が土田委員からあり、西名主査からそうではない、との回答があった。

土田委員から司会は質疑のこともあるため発表を集中して聞きたい、できるなら司会は審査から外すのが良いという、意見があった。運営委員が司会の場合も審査から外すのか？、という質疑に対して、西名主査から審査員の数に余裕があれば、そのよう新田言おうに**対応**したいという回答があった。

5. 人間環境学 改訂について（資料1-6）

大野委員から、「人間環境学」の書籍について、内容の改訂を行ってはどうか、という提案があり、その提案について運営委員会で議論した。以下に内容を示す。

■ 大野委員

98年に出版され、内容についてそのままで良さそうなどころもあるが、古くなっていて内容を変えたらという箇所もある。

環境心理・行動学がどのような範囲を扱う学問分野なのか、さんざん議論をして作りあ

げた本。この本の改訂版を作るというのは、研究分野全体を俯瞰する良い機会。

■ 讃井委員

この本は、とても教えやすい教科書。専門的な内容を扱っているが敷居が低く、深い内容も記述されている。ただし、値段がカベになっていて、学生に教科書指定しても買うのは半分以下の状況。

改訂版を出すなら、前段の内容をベテランに、研究に関する細部は若手の研究者に書いてもらう？

■ 大井委員

九州大学の芸術工学部は、理系だが設計志向の人が多い。環境工学の授業の内容は設計に直結しづらい。一方で、この本は、構成が使いやすいため、こちらでは役に立っている。

全く新たな本を作るのは大変なので、内容は少し直せばそのまま使えそうに感じる。

人間環境学の本を作るときに新しい環境心理系の本ということで目次の議論を散々やった。改訂版については、中身をどのくらい新しくするかだと思う。

■ 西名主査

全体的なところを勉強するにはとても良い本なので、研究室に入った学生に一冊読むなどして勉強させている。本の後半に実際の設計についての具合例もあるし活用の程度は高い。刊行されて20年なので、そろそろ改訂を考えるというのがあっても良いと感じる。

以上のように、否定する意見もないため、前向きに検討する方向で考えたい。

改訂をやるとなると、どなたが、考えることを引き取るか。

運営委員会に直属のWGを作り、運営委員会の先生プラス機動力のある先生で構成して進めるなどあると思うが、いかがか？

■ 讃井委員

企画刊行委員会は2年間なのでその間に本を出さなければいけない。目次案くらいはWGで作っておきたい。

■ 大野委員

人間環境学には、環境工学に特化した内容が chap4 のみと少ない。施設別の事例などは今では類書が多いので、もう少し環境工学の分量を増やした方が良いと思う。

改訂版について、大方針を出して、それに則ってWGで構想を深度化するのはいかがか。

■ 松原委員

橘先生、宮田先生、目次の議論をしてきたのをみていた。最終的に大野先生がまとめられたのが功績と思う。

環境工学の内容に近づけるのには私は同意しない。音・熱・光のそれぞれの内容をふくらましていくのが良いのでは。(讃井委員同意)

■ 大野委員

確かに計画系の方が環境工学の基礎を知るために使えるものを目指すのがよいと思う。

金額も2,000円台に押さえる、100ページくらいにして、カラーコピーするよりは購入してもらうように。2,800円とか。

■ 土田委員

書籍の電子化などは視野に入れるのか。

他の委員数名から、電子書籍を使っている学生みたことがない、という意見があった。

■ 讃井委員

先の本の執筆者には、アップデートという形で、優先的に参加させてあげてはいかがか。

■ 大野委員

先の本の執筆時には、主査よりも年齢が高い人は執筆者にいなかった。全ての原稿に対して、大野委員がコメントし、執筆者に chap をあげるのはやめて主査が理解できる環境工学の本を目指して、そのように ~~に~~ なった。

今回もそのように進めるのがよいと思うがいかがか。当時の執筆者もいまでは皆さん偉くなっている。

■ 讚井委員

若い人に任せるとこれまでの本の記述がごっそりなくなったらいやだと感じる。それが、ないよう進めて欲しいという意図で発言した。執筆者として優先的という意図ではないため、先ほど発言は取り消す。

■ 大井委員

これから WG で議論したらよいと思うが、残したいところはコラムとして残すとかも良いと思う。WG ではどれを残すかという議論から進めては。

■ 西名主査

今後の方針を整理すると、あらかじめ運営委員会で大方針をどうするか決めて、細かい作業は WG で動かして進める。

大方針は内容的に残すところ、加えるところを整理、後半の事例をどうするか、について議論し、その方針に則って WG で進める。

WG は本委員会で承認ができれば OK なのですぐに設置する。

WG を設置するとメーリングリストが使えるので、大方針については、とりあえずはメールでやりとり、議論に加わりたいなら、メーリングリストに登録する。議論が進んだ段で集まって打合せをするという流れ。

メールを中心とした議論は興味がある人はみんな入ってもらって進める。

各小委員会の先生方にも参加を打診して希望者を募り、WG に登録する。

■ 讚井委員

真剣に興味を持っている人はウェルカムだが、少し興味ある程度の軽いのは NG。WG ではその後にそれなりの責任を負うつもりで参加して欲しい。

■ 西名主査

とりあえずは、運営委員会主査、幹事で参加者の名簿作成。取りまとめができれば、大野委員に主査をお願いし、メンバの中から幹事を決めていただくという流れでいかがか。

■ 大野委員

人間環境学の改訂をとおして、自分の専門の分野のみではなく、分野全体を俯瞰したいという意図をもってまとめようという思いが欲しい。

■ 西名主査

7月はじめ頃までに各小委員会に WG への参加についてアナウンスを依頼、7月中旬までに参加者取りまとめ。

次回の本委員会（9 / 12 開催）に WG 設置申請を行う。

また、WG には参加はしないが、人間環境学の改訂に関連した意見はウェルカム。

■ 土田委員

音響学会では、書籍の出版をシリーズ化して販売している。この場合、" (←?) シリーズの本をあれもこれもと買ってもらえて好調の様子。

ひとつのアイデアだが、人間環境学については改訂版だが、人間環境学シリーズとし

て位置付けるのはどうか。環境心理小委員会傘下のWG企画中の評価グリッド法の本もシリーズのひとつとしてはどうかと思う。

6. その他（資料なし）

・予算消化について

アクティブな委員会にはもっと使わせて欲しいと声を挙げてはいかがか。
前本委員会主査の時には、12月末、1月末で予算執行状況を判断し、再配分していた。
運営委員会のなかで、もっと積極的に使って欲しいと声かけをしては。
旅費を1回請求すると2回目はためらってしまうが、使える人が行けばよいと思う。

・WGの旅費について

WGを運営委員会直属にすると、WG単独で旅費が出せないため開催が厳しい？
通常、本委員会と同日に運営委員会を開催するため、その日にさらにWGを開催するのは難しそう。WG単独で旅費が出せるか確認が必要。
過去に、小委員会、運営委員会が認めればWG単独で支出してOKというのがあった。

G. 【次回の開催日程】

次回開催日は、本委員会が開催される9/12（月）の17:30～19:30。

以上